

全酪連会報 4

2022 APR No.679

若手後継者の本音／山下和成さん

酪農部だより／新シリーズ「ZenrakuOriginal(ゼンラクオリジナル)」2022年4月1日(金)より発売

令和3年度 監事・役職員研修会開催

日本酪農見て歩紀／株式会社小沢牧場(長野県上伊那郡南箕輪村)

酪政連活動報告

酪農業に対する理解醸成活動報告④

酪農トピックス／桜開花 ♡ 春疾風 モ～1杯! 牛乳飲んでくだ祭(福岡)ほか

令和4年 各地域酪農青年女性会議酪農発表大会開催変更のご案内

新入職員入会式



www.zenrakuren.or.jp/business/kobai/caltop/



全国酪農業協同組合連合会

高山市の紹介

高山市は岐阜県の北部に位置し、敷地面積は東京都とほぼ同じという日本で最も広い市です。高山市街の「古い町並み」エリアでは江戸時代に城下町として栄えていた頃の景色がほぼそのままの姿で残っており、風情と歴史を感じることが出来ます。北アルプスの麓に位置する奥飛騨温泉郷は100以上の源泉が湧き、露天風呂の数は日本一と言われており、大自然の景色を眺めながら心と体を癒せる人気スポットです。また、高山市には某漫画に登場する「両面宿儺」の伝説が残っており、今にわかに注目が集まっています。

就農までの経緯

実家が酪農を営んでおり、小学生のころから酪農を継いでいくことは考えていたそうです。そのため高校は、北海道別海高等学校の定時制酪農科に入学し、北海道の酪農家で下宿しながら学校生活を送っていました。当時高校で教鞭をとっていた先生が大の牛好きだったらしく、「共進会に



▲ 有限会社 YAMASHITA DAIRY
山下和成さん

今回は、岐阜県高山市 有限会社 YAMASHITA DAIRY の後継者 山下和成さんにお話を伺いました。

連れて行ってもらったこともあり、普段の授業以上のことを教えてもらったうちに、より牛に興味が湧きました。」と和成さんは仰っていました。

父である秀治さんのご友人の勧めで、その後和成さんは、北海道農業専門学校である八紘学園に進学しました。学友には酪農後継者が多く、牛が大好きな人ばかりだったため、これは負けていられないと切磋琢磨する日々を過ごしたそうです。卒業後は八紘学園の牛舎管理の職員として1年を過ごし、その後北海道北見市の酪農家で1年間実習しました。実習した酪農家は共進会にも力を入れており、トップレベルの牛とその牛たちを管理する手腕を学びました。そして23歳で実家に戻り、牧場の運営に携わるようになりました。昨年の9月に牧場は法人化し、和成さんが代表を務めています。

力を入れていること

和成さんが力を入れているのは、牛の改良と改良した牛の能力を生かす飼育管理を行うことです。和成さんが牛が好きで改良も好きだということも理由の一つですが、牧場のある高山市の立地も関係しています。高山市がある岐阜県は海に面しておらず、牧草などの輸入飼料も安価で手に入るわけではありません。加えて山に囲まれた立地のため、広大な敷地を確保できず、牛の飼料をすべて自給で賄うことができるかと言われると、それ

も難しいのです。

「高山市で酪農を経営すると、飼料の購入費と、自給飼料を作成するための機械の維持費がかかることは避けて通れず、中途半端な経営では立ち行かなくなってしまう。条件が厳しいこの土地で酪農を続けるには、高い生産性を維持することが必須でした。そのために、乳量が増えるわかない牛を牛舎に置かないことをはじめ、給与しているTMRの内容にもこだわらるなど、管理と改良の双方を疎かにしないよう努めています。」と和成さんは仰います。高い生産性とその生産性を最大限に発揮できる管理を行っているこの牧場では、牛群検定における「経産牛1頭当たり年間成績」は12,000kg/月の実績を残しています。



▲ 高山市「古い町並み」エリア

疾病を乗り越えて

一時期牛群内で疾病が発生し、26頭の牛が疾病に倒れ、44頭だった経産牛が18頭まで減少したことがあります。牛舎には罹患した牛が倒れ、もう酪農をやめようかというところまで考えたそうです。しかし、当時牧場によく来てい



▲ 牛舎内の様子



▲ 給餌するTMR 匂いも食いつきもよく成分にも気を配ります



▲ 給餌後の様子 採食中の牛や横臥して反芻中の牛もいます

若手後継者の 本音

Vol.56

〔経営概況〕

所 属 飛騨酪農農業協同組合(岩長明宏代表理事組合長)
家族構成 山下和成さん、秀治さん(父)、ひとみさん(母)、朝子さん(妻)
飼養頭数 経産牛50頭、育成牛28頭(一部預託)、子牛4頭

将来の展望・目標

和成さんは「牛を譲っていただいた方の中には、改良と牛の管理をとてマメにされていて、1日あたり平均乳量40kg/頭を常に達成している方もいらつしやいました。そうした方々が山下牧場なら預けられると言って譲ってくれた牛たちが経営を支えてくれています。」と仰っていました。

和成さんは「牛を譲っていただいた方の中には、改良と牛の管理をとてマメにされていて、1日あたり平均乳量40kg/頭を常に達成している方もいらつしやいました。そうした方々が山下牧場なら預けられると言って譲ってくれた牛たちが経営を支えてくれています。」と仰っていました。

た方から「たとえばF1子牛は25万円/頭だけれど、これを普通に働いて稼いでいくのはかなり大変だよ。」と言われ、それもそうだと感じた和成さんは状況を打破する糸口を探し続けました。そして交流があった酪農家の方々から牛を購入することができ、1日の出荷乳量が450kgまで減少していたところから立て直していきました。

また、昨年春には分娩頭数が多く、昨年夏は1日あたりの平均乳量が40kg/頭を達成したものの、現在(取材した3月時点)は35kg/頭ぐらいのため、年間を通して40kg/頭を維持できるよう、分娩を均一にし、繁殖改善を行っていくことも目標だと仰います。夏場でも種付けが良い牛を残していくことも、改良ならびに繁殖改善の一環として取り組まれています。

「将来的には『経産牛1頭当たり年間成績』の13,000kg/月を達成したい」と和成さんは意気込んでいました。



全国の若手後継者の皆さんへ一言!

今酪農業は苦しい状況が続いていますが、悪い時があれば良い時があるように、状況はいつか好転する 때가来ます。それまで自分のやること・やれることの最善を尽くし、乗り越えていきましょう。





Zenraku Original

酪農への“想い”をつなぐ

アシタも ミライも
ここで
会おう

“アシタもミライも
ここで会おう”
酪農への“想い”を込めた
新シリーズ「Zenraku
Original (ゼンラクオリジナル)」
2022年4月1日(金)
より発売



全酪連は、新ブランド「Zenraku Original (ゼンラクオリジナル)」のプロセスチーズ4種を2022年4月1日(金)より新発売いたします。

本シリーズは、1971年に日本の酪農協が初めて生産した国産ナチュラルチーズ「全酪ゴータチーズ」をはじめ、厳選した原材料チーズを配合し、素材の良さをそのまま生かして味わい深い、まろやかで食べやすい風味に仕上げました。また、原材料だけでなく、包材資材に至るまで確かで安全な素材を厳選した、あらゆる面で「オリジナル」なプロセスチーズです。

本商品のパッケージには、どこか懐かしく親しみの湧く牧場の風景をそれぞれ描き、Zenraku Originalロゴマークには皆の酪農への「想い」がひとつになり、ともに笑顔で生きる未来をつくりたいという想いを込めています。日本の酪農は、長引くコロナ禍での生乳需給緩和や飼料費の高騰など、とても厳しい状況にある一方、近年では酪農家が自ら立ち上げた工房で作られるチーズが海外で高い評価を受けるなど、多様かつ創意工夫にあふれる国産チーズは盛

Zenraku Original シリーズ 商品紹介



① スモークチーズ

内容量：120g
1 ケース入数：30 個
賞味期限：
180日（製造日含む）



② 6P チーズ

内容量：108g (18g × 6)
1 ケース入数：24 個
賞味期限：270 日（製造日含む）



③ スライスチーズ

内容量：126g (18g × 7)
1 ケース入数：24 個
賞味期限：180 日（製造日含む）



④ とろけるスライスチーズ

内容量：126g (18g × 7)
1 ケース入数：24 個
賞味期限：180 日（製造日含む）



▶ <https://zenraku.stores.jp>



2021年8月1日よりインターネットでも商品をお買い求めいただけるようになりました。
本会ホームページのバナー「全酪連公式オンラインショップ」をクリックするとショップページへ直接アクセスできます。この機会に是非ご利用ください。

り上がりをみせています。
本会も、本商品を通して国産チーズのおいしさや価値に改めて注目が集まり、酪農家と消費者が酪農への「想い」でつながり、ともに笑顔で生きる未来に進めるよう取り組んでいます。今後とも皆様にご満足いただけるような商品づくりに努めてまいりますので、何卒ご愛顧賜りますようお願い申し上げます。

令和
3年度

監事・役職員 研修会 開催

去る令和4年2月9日に、令和3年度監事・役職員研修会を開催いたしました。今回も、コロナ禍によりリモート開催となりましたが、31会員から120名を超す方々にご参加いただきました。今号では、研修会の内容の一部を抜粋し、ご報告いたします。

酪農乳業の持続可能な取り組みの情勢について

一般社団法人Jミルク生産流通グループ 課長

関 芳和 氏



た だ き ま す。

1 酪農乳業における、SDGs（持続可能な開発目標）とは

Jミルクでは、酪農乳業関係者の皆様と一緒に、将来にわたる持続可能な産業の構築に向けての取り組みを開始しました。これらの取り組みに至った背景や課題を踏まえ、海外の情勢なども紹介しながら、20年後30年後を見据えてどんなことをやるうとしているのかをご紹介します。

2015年、国連は「2030アジェンダ」という世界共通の人と地球の繁栄のための行動計画を、社会・経済・環境の三つをテーマにした目

標、いわゆる「SDGs」を作りました。この目標を世界各国の合意のもとに策定し、『持続可能な地球を守る』を目標として宣言しました。これをきっかけに、酪農乳業では翌2016年に、国際酪農連盟（IDF）がワールドデベロプサミットにおいて『酪農乳業関係者が一緒に、社会・経済・環境、さらに栄養という面に配慮した取り組みを進めていこう』というロッテルダム宣言を掲げ、日本は翌年この宣言に署名しています。2019年には、Jミルクが関係者との議論を経て、日本はどのような行動をしていくのかを提示した「持続可能な産業を目指す戦略ビジョン」を策定し、この戦略ビジョンに基づき様々な行動を開始しているところ です。

2 国内の状況

SDGs達成に向けては、特に環境対策を中心に議論が活発になっています。このSDGsは、「社会・経済・環境」の三つの視点で持続可能な取り組みを進めていくと定義されています。

図1では、日本酪農が果たすべき役割と既に貢献していることと、今

【図1】SDGsの17の目標のうち日本の酪農乳業がどれに当てはまるのかを示した

酪農乳業におけるSDGsに関する取り組み例

SDGsのアプローチは「社会・経済・環境」の領域であるが、それぞれの課題が互いに関連し影響している（トレードオフになることがある）ことを認識する必要がある。（例：経済活動が活発になると、環境負荷がかかるなど）

国内の酪農乳業におけるSDGsへの役割と課題例		
	果たすべき役割・貢献していること	今後の課題
社会	◆牛乳乳製品を通した必要な栄養の供給 ◆酪農教育ファームによる社会貢献	◆女性がさらに活躍できる環境 ◆農業・畜産の低減 ◆自然災害への備えと対応
経済	◆酪農の継続的成長 ◆酪農乳業における雇用創出 ◆外国人材の受け入れ・共生 ◆スマート農業の推進	◆担い手・労働力の確保 ◆労働環境の改善 ◆アニマルウェルフェアの向上
環境	◆循環型農業の実現と未利用農地の活用 ◆堆肥活用等有機農業の推進 ◆メタンガス等再生可能エネルギーの活用 ◆エコフィードの利活用	◆温室効果ガスの削減（メタンなど） ◆輸入飼料依存の低減 ◆水資源・飼料畑の適切な管理 ◆産業廃棄物の低減

日本における酪農乳業の特性や食文化などを踏まえながら、持続可能な社会づくりに酪農乳業がどう貢献していくのかを関係者が一体となって構築していく必要

後の課題を例示的に示しています。が、持続可能な取り組みを進めていくに当たっては、日本の酪農乳業の特性や、持続可能な社会へどのように貢献していくのかを考えながら、関係者の皆様と一緒に構築していく必要があると考えています。Jミルクは、2019年に「戦略ビジョン」策定にあたり以下の3つの視点を示しました。

①市場の成長可能性とこれを支える国内酪農生産基盤（成長性）

世界の牛乳乳製品需要は今後も底堅いことから、高付加価値化を進めるとともに、アジア地域の食生活に貢献することにより、国産牛乳乳製品の市場を成長させることが可能。このためには、国内の酪農基盤を強化することが重要。

②変動性の高い事業環境への弾力的な対応（強靱性）

本格的なグローバル競争、地球温暖化による自然災害の増加、人口動態による消費構造の変化、新興国の酪農発展と需要の拡大を背景に、変化の激しい状況が続く見通し。こうした状況に対応するため、酪農乳業が連携した取り組みを進めることが重要。

③社会や消費者の新たな要求にいかに対応するのか（社会性）

地球規模の人口増加への対応、環境負荷の軽減、新たな栄養問題への貢献など、新たな要求が強まる見込み。これらに応え、酪農乳業が社会から信頼・支持されるためには、日本独自の取り組みや成果を見える化する必要がある。

これからは③の社会のニーズにどのように応えていくかが特に重要と考えます。日本独自の取り組みを決め、将来に渡ってどのような目標をたて、どのようなステージに行きたいのかをしっかりと明示した上で、将来世代に渡る酪農の持続的な産業を構築することを目指していきたいと考えています。

Jミルクでは、戦略ビジョン推進特別委員会と酪農乳業SDGs推進ワーキングチームに3つの作業部会を設置し、社会のニーズに応え得る検討を進めています。専門家主導の調査・研究による客観的エビデンスの構築が必要であり、海外の持続可能性に関する指標と比較しても認められるような取組みを推進していくことが必要であると考えます。

3 国内の取り組み事例

Jミルクの酪農乳業産業基盤強化特別対策事業のモデル事業として、比較的自給飼料生産が少ない地域へデントコーンなどの自給飼料生産が盛んな地域からラップサイレージにされた自給飼料を供給するとともに、そこで堆肥の有効活用を図ることで、輸入飼料への依存を下げ物質

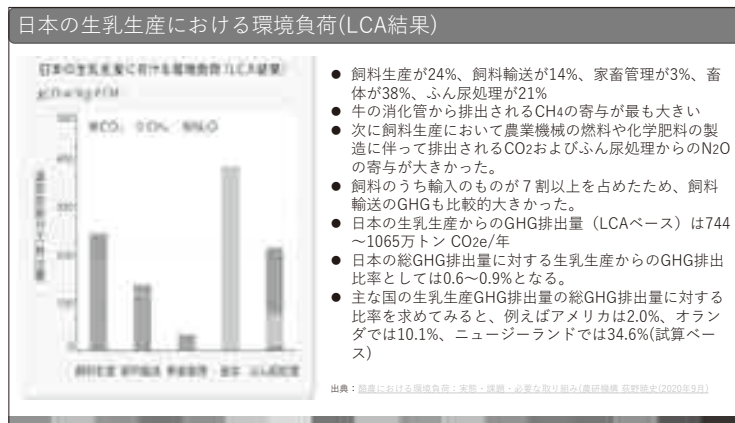
循環型の飼料生産に向けた取り組みを実施しています。

今後農水省の関連事業でも青刈りトウモロコシの生産拡大や、種実トウモロコシなどの推進も図られることから、このような国産飼料の流通を確立することで、都府県酪農の持続可能性の強化に繋がります。

4 日本の生乳生産による環境負荷

日本の温室効果ガスの総排出量のうち、酪農からの温室効果ガスは0.6%～0.9%とされています。

【図2】

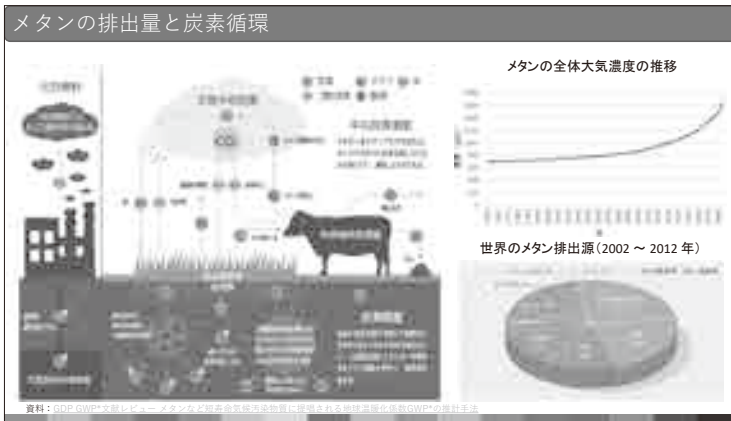


（米国2%、オランダ10%、ニュージーランド35%）。日本の生乳生産における温室効果ガスの排出量は、牛の消化管から出るメタンが一番多く、飼料生産、飼料輸送と続きます。

日本では、飼料の7割以上が輸入されており、飼料輸送でのCO₂排出量が非常に大きいのが特徴です。したがって、飼料生産を国内で行うことで飼料輸送におけるCO₂も削減でき、相対的に温室効果ガスの排出量も削減できると考えられます。これらの検証をさらに高めた上で、国内で飼料を作ることの優位性を高め少しでも環境負荷を減らすような取り組みを今後進めていくことが大切です。

酪農の中で一番多く排出される温室効果ガスはメタンですが、牛は草を食べ、消化器官で発酵・分解・吸収し、生乳、肉、或いは糞で排出されますが、暖気（ゲップ）で排出されるメタンは大気中に滞留するのではなく、10年程度でCO₂や水に分解されます。植物はCO₂や堆肥を吸収し家畜のエサとなります。このような炭素の循環が起きていることが、環境負荷だけではなく土壌にも還元されているということをしつ

【図3】



【図4】

酪農乳業ネット・ゼロへの道筋 宣言文 (GDP)

すべての酪農乳業のコミュニティで、すべての大陸で、世界の酪農乳業セクターは行動を起こしています。

「酪農乳業ネットゼロへの道筋 (Pathways to Dairy Net Zero)」は、この種の気候変動対策としては世界初の取り組みであり、今後30年間で酪農乳業セクターの温室効果ガス (GHG) 排出量を削減することで、この業界の気候変動対策を加速させます。

この取り組みは、世界の酪農乳業セクターが運営し、主要な科学・研究機関が支持しています。

私たちは、「酪農乳業ネットゼロへの道筋」を支持する者として、以下のことを認識しています。

- ◆ 酪農乳業は持続可能なフードシステムの構築に役立ち、高品質の栄養をすべての人に確保しています。
- ◆ すべての酪農システムと地域で前向きな変化が可能であるため、すべての人に温室効果ガスを削減する機会があります。
- ◆ 短寿命の温室効果ガスであるメタンの畜産からの排出量削減は、気候変動対策の一部になる可能性があります。
- ◆ 酪農には、生産性と資源利用効率を向上させることで、多くの地域で排出量のかなりの部分を削減する手段がすでにあります。
- ◆ 今日、排出量を削減することで、栄養面での供給を確保し、10億人分の明日の生計を維持し、私たち全員の未来を救うことができます。

世界の上位20社の乳業メーカーのうちネスレ・ダノン・DFA・フォンテラ・アーラフーズ・蒙牛乳業など11社をはじめ、25の国地域から85の主要組織が、この取り組みへの支持を表明。(日本は、明治・森永乳業・雪印メグミルク・乳紅・ミルクの5組織)

「酪農乳業ネットゼロへの道筋」の6つの基本方針

- ① 緩和 牛乳乳製品のGHG排出原単位をさらに低減するために、生乳生産および加工処理の効率化を継続的に実施します。
- ② GHG除去 炭素吸収源(土壌、森林、草原、泥炭地)を保護し、自然の生態系を補完する生産方法を強化します。
- ③ 回復と適応 飼料、糞尿、肥料、エネルギー管理などの慣行を改善します。
- ④ インセツトとオフセット 代替となる信頼できる削減方法を特定し、実施します。
- ⑤ 測定と監視 温室効果ガスの排出量を測定することで、緩和策を計画し、進捗状況を監視します。
- ⑥ 全体のサポート このイニシアチブを推進し、酪農乳業セクターの気候変動への野心を強調します。

【図5】

酪農家の持続可能な取り組みに対する消費者の意向

国際的な酪農乳業のサステナビリティに関する枠組み (DSF) の評価項目に基づく「酪農家の取り組みに関する支援の優先度」を把握するため日本と欧州の消費者に調査を実施。各項目の平均値を順位付けした。

調査結果の特徴は、各国とも温室効果ガス削減への関心が高くなっている。日本では特に、品質・安全性、労働環境への関心が高いが、牛の健康(アニマルウェルフェア)、や生物多様性の評価が低くなっている。国内における消費者への理解醸成活動や酪農経営との関連の実態や今後の意向についてさらに検討が必要。

評価項目	日本	イギリス	フランス	イタリア	オランダ
生乳の品質と安全性の確保に取り組む	1位	2位	8位	9位	6位
作業者の労働環境に配慮する	2	5	7	6	9
温室効果ガスの削減に取り組む	3	1	2	1	1
廃棄物の排出削減に取り組む	4	4	3	3	3
農村社会の維持・向上に貢献する	5	10	10	10	10
水と大気に関連した施肥に取り組む	6	7	5	2	4
水の利用量と排水管理に配慮する	7	6	6	5	5
生産に適した土壌管理に取り組む	8	9	9	8	8
牛の心身の健康に配慮する	9	3	4	4	2
生物多様性に配慮する	10	8	1	7	7
酪農を活かした新たなビジネスに挑戦する	11	11	11	11	11

資料：2022年3月実施の「酪農家の持続可能な取り組みに関する消費者の意向」調査。消費者(市販)が支持する持続的酪農の家-国際比較-名古屋大学大学院工学部 P6-9

アメリカでは、酪農乳業全体で自主的な連携した取り組みを作成しています。この取り組みにはアメリカの生乳生産量の60%を占める農協や企業が参加し実施しています。特に、カーボンニュートラルや環境負荷軽減のほか、水資源のリサイクルに対する取り組みを実施しています。

オーストラリアでは4つの酪農乳業関係団体が、優先的課題を確認し経済、健康、飼養環境などを考慮しつつ、

6 世界の主要国の持続可能取り組み状況

必要があります。

かり理解し環境への対応を行う必要があると考えています【図3】。

このような取り組みがCOP26では評価されていなかったのですが、2022年に開催されるCOP27では、このような炭素循環の評価をどう取り入れるべきかが検討されることとなっています。

世界の酪農・乳業組織であるグローバルデイルイプラットフォーム(GDP)では、温室効果ガスを削減する『酪農乳業ネット・ゼロへの道筋』を宣言し、各国の主要な団体

や乳業メーカーなどが支持することを表明し、その中で、酪農乳業は、温室効果ガスを削減する機会、排出量のかんりの部分を削減する手段があるとし、6つの基本方針を打ち出して今後一体となって取り組んでいくとしています【図4】。

5 消費者の意向

るのか調査した結果です。【図5】。

各国とも「温室効果ガスの削減に取り組む」項目が非常に関心の高く、「廃棄物の排出削減に取り組む」項目も比較的高い関心が高くなっています。

日本の消費者の特徴は、「生乳の品質と安全性の確保に取り組む」が一番高く、次に「作業者(生産者)の労働環境に配慮する」が高くなっています。一方、「牛の心身の健康に配慮する」が9番目であり、アニマルウェルフェアに関する項目は関

心度が低く、ヨーロッパでは比較的にアニマルウェルフェアや生物多様性ということに関心が高いことから、日本とヨーロッパでは消費者の酪農家の取り組みに対する意識が異なっていることがわかります。ヨーロッパの農業政策は生物の多様性の維持や環境への配慮がなされたものとなっており、こうした政策を通じて消費者が農業者を応援しているという背景があるのかもしれませんが。このような各国と日本の特徴を勘案しながら、生産者の意向を踏まえ、日本独自の持続的な酪農乳業を考えていく必要があります。

【図6】

世界各国の取り組み状況	
	スチュワードシップコミットメント (2020-) (Innovation Center for U.S. Dairy) 酪農乳業全体で持続可能性のリーダーシップを推進するため、利害関係者が連携した自主的な取り組み。環境や家畜使用など重要な分野で行動を整合させ定量化。2050年までにカーボンニュートラルもしくはそれ以上。水のリサイクルを最大化しながら使用量を最適化。堆肥と養分利用を最適化し水質を改善。
	Australian Dairy Plan (2020-2 025) (4つの酪農乳業関係団体) 4つの酪農関係組織が協力して優先課題を備えた計画を策定。業界の構造を改革し、業界としてのつながりを高め研究開発やサービス投資の際の透明しえのある優先順位と戦略的意思決定の確保など5つのコミットメントを策定。経済・健康・最適な飼養・環境負荷などサステナビリティも位置付けられている。
	France Terre de Lait「ミルクの大地：フランス」 (2018-2 023) (Cniel) 社会経済(セクター毎の働きがい)、食品衛生(消費者の信頼性確保)、責任ある生産(アニマルウェルフェアと環境保全)、食品パフォーマンス(責任ある消費に貢献)といった4つの軸と8つの取り組みで2025年に達成すべき目標を作成。
	Origin Green「オリジン・グリーン」 (2012-) (Bord Bia) アイルランドの食品と飲料の持続可能性プログラム。農家から食品製造業者、小売業者、外食産業まで持続可能な食品生産という目標をもって活動。畜産酪農の民間団体に限らず、政府の農業・食料・海産省や食品安全局、環境保護庁や環境保護庁、研究機関などの協力によるプログラムを実装している。

持続可能な取り組みを掲げています。フランスでは、生産者の働きがい、食品衛生、アニマルウェルフェア、環境保全などを視点に、2025年達成を目指した取り組みが進められています。

アイルランドでは、2012年から進められています。畜産・酪農に限らず、小売・外食産業まで食品産業全体で活動を進めています。民間団体だけではなく、政府の関係省庁が協力しながら、国を挙げて持続可能な農業・食品産業を応援してい

【図7】

サステナビリティに関する取り組みを反映させるための事例			
EUでは、サステナビリティに関する取り組みを評価し、インセンティブとなるボーナス乳価を設定している乳業者(酪農協)もある(2021年2月時点)			
乳業者(酪農協)	平均乳価(円/kg)	うちサステナビリティボーナス乳価(乳価に占める割合)	サステナビリティの評価
 デイリースーパード (アイルランド)	46.8	0.13円/kg (0.28%)	Bord BiaのSustainable Dairy Assurance Schemeと題するプログラムへの参加
 ヴァリオ (フィンランド)	46.9	2.522円/kg (5.38%)	乳牛の健康管理システム「NASEVA」の参加
 アーラフーズ (デンマーク)	41.7	2.587円/kg (6.2%)	乳質、安全性、動物福祉に重点を置いたArlaFarms Plusと飼料生産・飼料設計・再生可能エネルギー・糞尿処理・燃料消費を重点とした環境チェックプログラムへの参加
 DMK (ドイツ)	40.7	0.429円/kg (1.05%)	安全性、品質、動物福祉、環境などの生産者の意識を高めるミルクマスタープログラムへの参加
 ソニエール (フランス)	45.1	0.13円/kg (0.29%)	酪農場から工場までの品質管理システムLa Route Du Laitと題するサステナビリティプログラムへの参加
 フリースランド (オランダ)	44.4	0.312円/kg (0.7%)	衛生、品質、食品安全、動物福祉、持続可能な生産、屋外放牧に関するFocus planetと題したプログラムへの参加

資料 LTO International Milk Price Comparison, 1-4-2021 (1ユーロ=130円で計算)
17社のうち上記6社を含め9社がサステナビリティに関するボーナス乳価を支払っている。

くプログラムが作られています。これらの取り組みを進めていくために、EU圏内ではその取り組みに応じて乳価に反映するような事例もありました【図7】。

持続可能性を高める取り組みを評価し、インセンティブとして乳価に反映させている乳業経営をしている酪農協があります。評価は、安全性の確保、アニマルウェルフェアへの配慮、環境負荷の軽減を図るなどのプログラムを構築し、それを生産者ごとに評価してその取り組みに対し

ボーナス乳価を払う仕組みになっています。

7 まとめ

2021年はフードシステムサミットやCOP26をきっかけに「食」と「環境負荷」、動物性・植物性食品への関心が高まりました。世界的な会議を契機にフードシステムの環境負荷が話題となっていますが、持続可能なフードシステムは、国・地域の実態に応じた議論が必要で、海外からの情報を真に受けるのではなく、日本独自の食文化や実態を踏まえた議論が必要です。フードシステムを変革させるためには、企業だけではなく消費者の理解と行動の変化が必要で、正しい情報を伝えていくために、食育活動などを通して正しい食選択ができる消費者を増やすための活動が酪農乳業においても重要であると考えます。

日本では、Jミルクで開始した戦略ビジョンの取組みを契機に2020年より持続可能な酪農乳業を目指すための本格的な議論が始まったばかりです。日本のミルクサプライチェーンの特性を踏まえて、生産者・乳業者が一体となっ

て取り組みを進めていくことが必要です。そして、持続可能な産業を作るためには、将来影響を受ける次世代の生産者を始めとしたステークホルダーのニーズを把握し、一緒に議論を進めることが非常に重要であると考えています。持続可能な社会を作る取り組みは2年3年で終わる話ではありません。20年30年たっても酪農が将来にわたって社会に貢献していくということ打ち出し、国産の牛乳乳製品が国民の皆様にとって必要不可欠な食品であると理解していただくことで持続可能な酪農乳業が成り立つものであると考えています。

なお、当研修会で農林水産省畜産局総務課畜産総合推進室調整班課長補佐の松井裕佑氏にご講演いただいた『持続的な畜産物生産の在り方について』につきましまして、下記農林水産省のHPをぜひ参照ください。

▶ <https://www.maff.go.jp/j/kanbo/kankyoseisaku/midori/>

株式会社小沢牧場
長野県上伊那郡南箕輪村

更なるステップアップを

地域の紹介

株式会社小沢牧場は、伊那酪農業協同組合（小松平一代表理事組合長）に所属しています。酪農家戸数20戸、経産牛1,333頭、育成牛940頭となります。小沢牧場のある南箕輪村は、長野県南部、天竜川上流に位置する東西に大きく2つの飛び地になっている村です。西側には中央アルプスの経ヶ岳・駒ヶ岳を、東側には南アルプスの仙丈ヶ岳・東駒ヶ岳を望みます。村役場の標高は695Mで、面積は長野県の0.3%となっています。南箕輪村は、人口増加数・人口増加率長野県内一、平均年齢が最も若い活気あふれる村です。全国でも唯一、保育園から小、中、高、短大、大学、大学院まである村で、高校、大学、大学院は農業系より専門的に学ぶことができます。今回は小沢牧場の代表取締役社長である小沢敏雄さんと

▲ ご家族と従業員の皆さん



牧場の概況

小沢牧場は、昭和27年に祖父の宗幸さんが1頭の乳牛を購入したことから始まりました。昭和50年に敏雄

後継者である雄太さんにお話を伺いました。



長野県上伊那郡南箕輪村



▲ 牛舎内

平成28年の新牛舎建設に伴い、新しい機械を導入しています。まずは一番の特徴といえるマックスフィーダー（粗飼料と配合飼料を自

新牛舎の特徴

さんが就農し、昭和48年に32頭牛舎、平成12年に50頭牛舎に改築しています。その後、平成27年に雄太さんが就農をしたことがきっかけとなり、新牛舎の計画を始め、平成28年4月より株式会社小沢牧場として70頭対尻式牛舎をスタートしました。

現在は敏雄さん、奥さんの由美さん、雄太さん、従業員1名、アルバイト2名での作業となります。



▲ 牛舎草地畑

動で積み込み、給餌できる）、キャリロボ（ミルカー自動搬送装置）、そしてVMAP3（精密飼養管理ソフト）の導入をしました。この3つが連動し、今まで以上に精密な個体管理ができるようになりました。配合飼料だけでなく、粗飼料も多回給与ができるようになり、ルーメン内のpHが安定して餌の食い込みが良くなりました。また、管理ソフトにより給与量、乳量が連動しているのので、餌のやりすぎが無くなり牛のボディコンディションが安定するようになります…。

「給餌やミルカーを運ぶ時間が削減され、省力化にもつながり、その



▲ 搾乳中の小沢雄太さん

分牛の観察、発情発見、自給粗飼料収穫作業などに時間を割くことができるようになった。」と仰っています。

また換気扇、扇風機を多く設置し、細霧装置、ダクトファンも取り付け、夏場の暑熱対策にも気を付けました。

最も重要な自給粗飼料

現在近隣の借りている農地も合わせて約26haの牧草畑の作付けを行っています。昨年の収穫量は500t（約ロール1,000個）。栄養価が高く、品質向上を図るために、刈取り翌日に一体型ローバレーで水分50～60%になるように調整されています。

この面積は雄太さんが就農された



▲ 従業員

乾乳牛の管理

「まず注意していることは乾乳移行期時のボディコンディション。泌乳末期の牛のDCADを測定し、細心の注意を払っており、「とにかく乾乳中は牧草を食べてほしい。」との事で嗜好性の高い牧草を飽食できるようにされています。

乾乳牛舎を新たに作ったことで、飼養管理がしやすく、牛がのびの

びと過ごすことができ、また盗食などの心配もなくなり、分娩後の周産期病も減少し、乳量の増加につながっている。」と仰っていました。



▲ 放牧場

糞尿処理

近隣の酪農家4戸で共同利用できる堆肥舎、南箕輪堆肥センターを平成11年に建設しました。堆肥の半分は販売用として、半分は畑に還元し自家消費をしているそうです。販売については地元農協が窓口となり、軽トラ、2tダンプ、10kgビニール袋にてそれぞれ販売されています。

地元との交流

雄太さんは伊那酪農青年部に所属しています。南箕輪農村青年クラブ、地元の大芝まつりといったイベントに参加されましたが、今のコロナ禍で、ここ数年活動はできていないのが現状です。

今後の目標・夢

雄太さんにお聞きしたところ、3つの目標を掲げておられました。

①分娩間隔380日を目指す

現在の分娩間隔は401日です。新牛舎となり50日ほど短縮はされたものの、もっとと良くしたいとの事でした。特に初回授精日数が約90日と遅れているのが現状で、繁殖プログラムを実施し授精日数の短縮を目指したいとのことでした。



▲ 堆肥ビニール袋

②乳量の維持、もしくは毎年少しずつでも乳量アップ

牛群内における能力のバラつきが見られるため、今まで種雄牛に関しては組合に任せていたことで、自家産の高能力牛の受精卵採取を行い、移植することで牛群全体の底上げを図りたいとのことでした。

③自給粗飼料の収量アップと品質向上

今後考えている作付け面積の拡大を行いながら、ロール1つ1つの品質のばらつきをなくし、極力輸入乾牧草に頼らないように収量アップ、品質向上を目標としたいとのことでした。また、暑さに強い品種の選定



や適期での収穫、早期梱包の実施を心がけていきたいとのことでした。

最後に

まずは今回のコロナ禍の中、快く取材を受けていただいたことに感謝申し上げます。敏雄さん、雄太さんに話を伺っているといういろいろなことを考え、取り組まれてきたことに驚き、また良い結果悪い結果に対して検証し、今後の方向性としてさらに研究されていると思いました。常によくしていきたい、更なる高みへのチャレンジ精神を忘れない(株)小沢牧場の益々の発展をご祈念申し上げます。



▲ 食事中

酪政連活動報告

日本酪農
政治連盟

令和4年2月～3月

2/2	三役会議（於 全酪連役員会議室） ・令和3年度収支決算見込みについて ・令和4年度通常総会について ・今後の要請活動について	
2/14 ～ 2/15	決算監査 （於 酪政連事務所、全酪連会議室）	
2/17	農林水産省を訪問。森畜産局長へ特別要請を行う。 その後、衆議院・参議院において同要請活動を行う。 ・酪農生産資材の円滑な供給と高騰した生産資材への対応、支援 ・牛乳・乳製品需要の拡大施策   ▲ 特別要請書を森山元農相（食料安保検討委員会・委員長）へ手渡す佐藤委員長 ▲ 特別要請書を森畜産局長へ手渡す佐藤委員長	
2/25	衆議院・参議院会館において 国産バターの消費拡大運動を行う。	三役会議、令和4年度通常総会 （於 全酪連役員会議室） ・令和3年度運動報告並びに収支決算承認の件 ・令和4年度運動方針並びに収支予算承認の件 ・令和4年度会費賦課方針決定の件 ・任期満了に伴う役員の選任の件 中央常任委員会 （於 全酪連役員会議室） 役員互選の結果 委員長、副委員長、幹事長は再任となる。
3/4	九州酪農政治連盟 各県会長・委員長・事務局合同会議へ参加 （於 福岡朝日ビル）	
3/7	酪政連東北ブロック協議会 通常総会へ参加 （於 TKP 仙台）	

酪農業に対する 理解醸成活動報告④



●牛乳消費拡大ポスターコンクール

●水戸駅ビル(茨城県水戸市)

開催日: 令和3年12月21日(火)

参加者: 茨城県酪農青年女性会議



●農業王国ふかやマルシェ

●深谷市役所コリドー (埼玉県深谷市)

開催日: 令和3年12月24日(金)

参加者: 埼玉酪農業協同組合 他



東京支所

●畜産ふれあい体験(モウモウスクール)

●山口県内の小学校

開催日: 令和3年10月下旬から11月中旬

参加者: 山口県酪農青年女性会議 10名



●第34回山漁村のつどい

●三重県総合文化センター (三重県津市)

開催日: 令和4年3月5日(土)

参加者: 三重県酪農業協同組合 他 50名



名古屋支所

大阪支所

●庄原赤十字病院への消費拡大活動

●庄原赤十字病院(広島県庄原市)

開催日: 令和4年1月17日(月)~24日(月)

参加者: 広島県酪農業協同組合



●直売所 年始初売り

●みるく館[直売所](鳥取県東伯郡琴浦町)

開催日: 令和4年1月3日(月)~4日(火)

参加者: 大山乳業農業協同組合 他 8名



●牧場見学、職業体験

●板東牧場(徳島県板野郡上板町)

開催日: 令和3年11月8日(月)

参加者: 徳島県酪農青年女性会議



●ふくおかの酪農
応援理解醸成活動

●カイトック
スクエアガーデン
(福岡県福岡市)

開催日: 令和4年
3月26日(土)

参加者: ふくおか県酪
農業協同組合
5名



●減塩乳和食講習会

●佐賀県内の高校

開催日: 令和3年6月16日(水)、令和3年10月19日(火)、
令和3年11月22日(月)、令和4年1月19日(火)

参加者: 佐賀県酪農婦人部連絡協議会 3名



●酪農理解醸成活動

●佐賀県内の小学校

開催日: 令和3年
11月25日(木)

参加者: 佐賀県酪農
婦人部連絡協議会



●酪農理解醸成活動

●熊本県内の保育園

開催日: 令和3年12月24日(金)

参加者: 菊池地域農業協同組合 泗水酪農部会 2名



●酪農理解醸成活動

●佐賀県有明海漁業協同組合 南川副支所

開催日: 令和4年2月4日(金)

参加者: 佐賀県酪農婦人部連絡協議会



●酪農理解醸成活動

●佐賀県内のこども園

開催日: 令和3年12月8日(火)

参加者: 佐賀県酪農婦人部連絡協議会



●消費拡大・理解醸成活動

●イオンタウン始良西側2F 踊り場(鹿児島県始良市)

●どっ菜市场(鹿児島県鹿屋市)

●西之表港(鹿児島県西之表市)

開催日: 令和4年3月26日(土)

令和4年3月29日(火)

参加者: 鹿児島県酪農協同組合 他

イオンタウン始良 20名

どっ菜市场 14名

西之表港 7名

福岡
支所発

桜開花 はやて 春疾風 モ〜1杯！牛乳飲んでくだ祭 さい

春の牛乳消費拡大にむけて、3月26日(土)に「モ〜1杯！牛乳飲んでくだ祭」が福岡三越ライオン広場(福岡市中央区)で開催されました。このイベントは、九州生乳販売農業協同組合連合会(中村隆馬代表理事長)を中心に、九州酪農政治連盟協議会(宮本貞治郎会長・長崎県)・九州酪農青年女性会議(大山雅行委員長・宮崎県)・九州ホルスタイン改良協議会(岡嶋建一郎会長・大分県)・全酪連福岡支所(鈴木有希津支所長)が賛同し、「オール九州」による理解醸成活動となりました。

開催前夜は大雨で春の嵐となってしまう、開催できるか心配していましたが、イベントが進んでいくと共に、厚い雲も徐々に遠ざかり、雨も止み晴れ間が見えるようになりました。

当日は酪農家を中心に九州各県より約30名が集

結し、3,000セットのチラシ・LL牛乳を配布、一般消費者にいつもより「モー1杯」飲んでもらうようアピールしました。

また、イベント会場では、酪農家によるトークショーやクイズ大会、模擬牛「くるみ&クルクル」による搾乳体験や哺乳体験もありました。トークショーでは、九州の酪農の状況や日々の酪農家の仕事、牛乳消費拡大のお願いなどを、分かりやすく発信しました。消費者からは「たくさん牛乳飲みます！」など温かい言葉をいただき、参加したメンバーには達成感と消費者との触れ合いによる笑顔が溢れました。

「九州はひとつ」と連携して活動する前向きな姿勢は、春の温もりとともに酪農の明るい未来へ繋がる一日となりました。(M.Y)



▲ トークショー 1回目
左から、中村会長(九販連)・宮本会長(九酪政連)・大山委員長(九酪青女)・稲田会長(熊本酪青女)



▲ トークショー 2回目
左から、中村会長(九販連)・宮本会長(九酪政連)・大山委員長(九酪青女)・松本副会長(佐賀婦人部)



福岡
支所発

今年も楽しく！ 「第65回 佐賀県酪農婦人の集い」

2月28日(月)、今年で第65回を迎える佐賀県酪農婦人部連絡協議会（宮崎経子会長）、JAグループ佐賀畜産振興協議会（金原壽秀会長）主催の佐賀県酪農婦人の集いが、開催されました。縮小開催という形ですが、皆さん久しぶりに顔を合わせ、閉会後も会話が弾みました。

1. 牛を健康に育み、最大限の個体乳量生産を目指そう！
2. 高品質かつ需要期での生乳増産により収益を確保しよう！
3. 牛と自然環境にやさしく、地域と共生する快適な生産環境を実現しよう！
4. 消費者に愛される「美味しい佐賀の牛乳」を生産し、“佐賀酪農”を次につないでいこう！

これらの大会のスローガンに則り、第58回乳質

改善共励会表彰（第1位 古川美津子さん）、生乳需要期増産表彰（第1位 垣内聡美さん）、第33回牧場花いっぱい美化コンクールの表彰式（最優秀賞 松本裕子さん）が行われました。

入賞、表彰された皆さん、おめでとうございます。

花いっぱい美化コンクール表彰者の、花がたくさん植えられた牧場写真パネルがあり、どの牧場もととても綺麗でした。普段、農家巡回を行っている際も綺麗な花に癒され、酪農家の皆さまの美化意識が感じられます。綺麗な牧場は気持ちが良いですね！

最後に、佐賀県酪農婦人部連絡協議会 松本裕子副会長により「婦人の集い宣言」が読み上げられ、会場から大きな拍手をもって採択されました。

来年もまた、皆さんと笑顔で顔を合わせられることを楽しみにしています。 (M.S)



仙 台
支所発

山形県酪農業協同組合が 県に牛乳・乳製品の消費拡大を要請

山形県酪農業協同組合の山口長一代表理事組合長は県内の酪農家を代表して、令和4年2月21日(月)山形県庁を訪問し、吉村美栄子山形県知事や坂本貴美雄県議会議長、高橋雅史農林水産部長に牛乳・乳製品の消費拡大を要請しました。吉村県知事は早速、畜産振興課に県庁職員の牛乳・乳製品の注文の取りまとめを指示されたとのこと。また、県議会においては当日に2月定例会の各常任委員会が開催されていましたが、山形県酪農協が提供した牛乳・ヨーグルトが各委員会に配布されました。特に農林水産常任委員会の議員は、休憩時間に全員で牛乳を飲み干し、牛乳・乳製品の消費拡大に協力する姿勢をアピールしたそうです。

山口組合長は、『年末には岸田総理大臣や金子農林

水産大臣が牛乳の消費拡大を呼びかけた。消費者がこの酪農情勢を理解しているうちに、アクションを継続して起こすことが大事だと思った。県議会に協力をいただいたが、県議会議員は山形県内各地から選出されており、その家族などから県内全体に広がりをもせることを期待したい。年度末やゴールデンウィーク期間に牛乳廃棄の危機が懸念されている。今は小さなつぼみかも知れないが、大きな花となることを、さらに全国的な大きな花が咲くことを期待したい』と語っておられました。また、地域においても牛乳消費拡大の動きがあるようで、組合長の地元南陽市では、県立高校に牛乳自販機が設置されており、今後も、商工会とタイアップし、6月にオープンする公衆浴場にも設置される予定とのこと。 (I.Y)



▲ 吉村県知事と対談



▲ 坂本県議会議長に要請



▲ 高橋農林水産部長に要請

東京
支所発

地元プロバスケットボールチームと 牛乳普及活動(東毛酪農)!!

3月5日(土)群馬県太田市にあります太田市運動公園にて『OTA マルシェ』が開催されました。太田市はプロバスケットBリーグの『群馬クレインサンダーズ』のホームグラウンドとなっているため、同チームおよび地域経済の活性化を目的としてホーム戦に合わせて毎回開催されています！今回の『OTA マルシェ』ではJミルクの「牛乳緊急消費促進事業」を活用し群馬県牛乳販売農業協同組合連合会（唐澤透代表理事会長）の協力のもと、地元の東毛酪農業協

同組合（大久保克美代表理事組合長）の低温殺菌牛乳の無償配布と年度末に向けた牛乳消費拡大についての理解醸成活動が行われました。昨年より学校給食向けの牛乳パッケージに『群馬クレインサンダーズ』のマスコット『サンダくん』とコラボレーションした『サンダくん牛乳パック』を採用し牛乳普及を実施しています。当日は老若男女問わず多くの方が牛乳を堪能し幸せなひと時を過ごしていました。（Y.K）



令和4年

各地域酪農青年女性会議 酪農発表大会

開催変更のご案内

第50回九州酪農青年女性
酪農発表大会

4月20日(水)

〈鹿児島サンロイヤルホテル〉

〒890-8581

鹿児島県鹿児島市与次郎1丁目8-10

TEL:099-253-2020

第50回中部酪農青年女性
酪農発表大会

5月27日(金)

〈湯の山温泉 グリーンホテル〉

〒510-1233

三重県三重郡菰野町菰野8522

TEL:059-392-2115

4月20日(水)、5月27日(金)と、1日開催に変更となりました。
お問い合わせは、最寄りの全酪連支所までご連絡ください。

全酪連2022年の ニューフェイスが集結!

4月1日(金)、全酪連本所 酪農会館（東京都渋谷区）において令和4年度新入職員入会式が行われ、今年度は、大学・大学院卒業が15名、高校卒業が3名入会しました。これからよろしくお願いいたします。



作品募集のお知らせ

第48回 らくのう こどもギャラリー

① 募集規定

- (1)酪農を中心とした題材の図画（大きさは自由）
- (2)自作で未発表のものに限ります。
- (3)作品には、題名・住所・氏名・振り仮名・年齢・学校名・学年・保護者名を必ず記載してください。また、酪農家の子弟については保護者の所属組合名を記載してください。
- (4)作品返却を希望される方は応募時に返却希望の旨を申し出てください。

② 応募資格

4歳から中学生までの酪農家の子弟、および酪農に関心のある一般のお子さん。

③ 締切日

令和4年5月20日（金）（必着）

④ 提出先

下記「提出先一覧」中の最寄りの酪農青年女性会議事務局宛に提出してください。

⑤ 審査結果の発表

「第50回全国酪農青年女性酪農発表大会」の発表要旨、および全酪連会報7月号に審査結果を掲載いたします。

⑥ 褒賞

- ・特選 1点
 - ・入選 4点
 - ・秀作 若干
 - ・ファミリー賞 若干
（牛とのふれあいなど、ほのぼのとした雰囲気を持つ作品に贈られます）
 - ・あすなる賞 若干
（小学校入学以前の方の優秀作品に贈られます）
- ◎入賞者には記念品を贈呈いたします。
◎図画の優秀作品は、作者の顔写真・審査講評と共に「全酪連会報」の最終ページに掲載します。



第47回 特選
「うしさん、おおきいな」
荒 勇翔さん

第12回 酪農いきいき フォトコンテスト

全国酪農青年女性会議では、酪農家の生活や牛乳の生産現場をより鮮明に消費者に伝えていくことを目的に、「酪農いきいきフォトコンテスト」を実施します。

つきましては、下記のとおり作品を募集しますので、ふるってご応募いただきますようお願いいたします。

① テーマ

- (1)「乳牛のいる風景」
 - (2)「酪農作業風景」
- ※いずれも、酪農家がいきいきと牛乳生産に励む様子や、安心安全な牛乳生産のため懸命に仕事に取り組む姿勢が感じられるようなもの。

② 募集規定

- (1)写真は可能な限りデータで提出してください。
- (2)自作で未発表のものに限ります。
- (3)作品には、題名・氏名・振り仮名・住所・所属組合名を必ず記載してください。

③ 応募資格

酪農家

④ 締切日

令和4年5月20日（金）
（必着）

⑤ 提出先

下記「提出先一覧」中の最寄りの酪農青年女性会議事務局宛に提出してください。



第11回 特選
「こちらの哺乳瓶からも味見」
川野洋平氏 撮影

⑥ 審査方法

応募作品を「第50回全国酪農青年女性酪農発表大会」の会場内に掲載し、大会参加者の投票による審査を行います。
※応募多数の場合は事務局による予備審査を行います。

⑦ 審査結果の発表

- (1)「第50回全国酪農青年女性酪農発表大会」にて発表します。
- (2)「全酪連会報」の表紙に使用します。（号数未定）

⑧ 褒賞

- ・特選 1点
 - ・入選 若干
- ◎入賞者には賞品を贈呈いたします。
◎提出していただいた作品の返却はいたしません。
◎応募していただいた作品は、全酪連会報およびカレンダーへの掲載を含め、今後各地での牛乳消費拡大活動（「父の日に牛乳を贈ろう！」キャンペーン含む）等で使用することがありますのでご了承ください。

●北海道酪農青年女性会議

〒060-0003 札幌市中央区北3条西7丁目1
酪農センター5階 全酪連札幌支所内
TEL 011-241-0765

●東北酪農青年女性会議

〒980-0021 仙台市青葉区中央1-7-20
東邦ビル3階 全酪連仙台支所内
TEL 022-221-5381

●関東甲信越酪農青年女性会議

〒151-0053 東京都渋谷区代々木1-37-2
酪農会館 全酪連東京支所内
TEL 03-5931-8011

●中部酪農青年女性会議

〒460-0008 名古屋市中区栄1-16-6
名古屋三蔵ビル3階 全酪連名古屋支所内
TEL 052-209-5611

●西日本酪農青年女性会議

〒532-0011 大阪市淀川区西中島5-14-10
新大阪トヨビル6階 全酪連大阪支所内
TEL 06-6305-4196

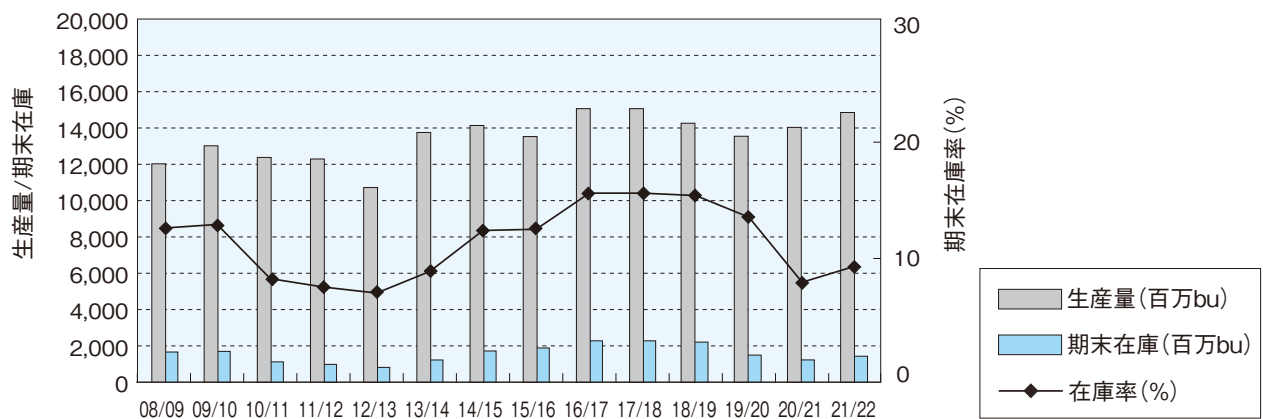
●九州酪農青年女性会議

〒812-0016 福岡市博多区博多駅南1-2-15
事務機ビル7階 全酪連福岡支所内
TEL 092-431-8111

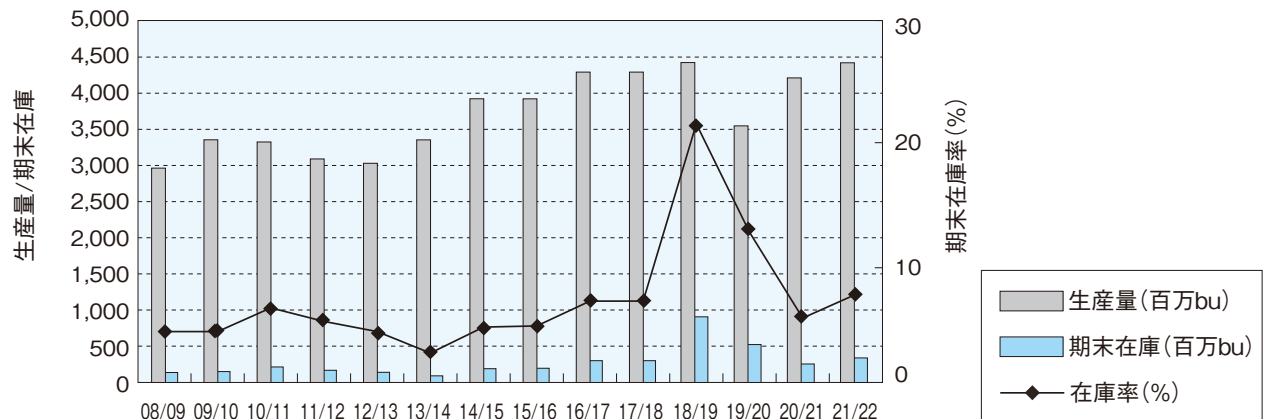


		20/21年産	21/22年産
3月9日発表 米国農務省 トウモロコシ 需給予想	作付面積(百万エーカー)	90.7	93.4
	単 収(ブッシェル/エーカー)	171.4	177.0
	生 産 量(ブッシェル)	141億1,100万	151億1,500万
	需 要 量(ブッシェル)	148億2,100万	149億3,500万
	期末在庫(ブッシェル)	12億3,500万	14億4,000万
	在 庫 率	8.33%	9.64%
トウモロコシ 相場動向	シカゴ相場はロシア・ウクライナ情勢を受けて高騰している。ウクライナ産コーンは輸出量が世界3~4位となっている。黒海積み出し輸出ターミナルが戦争により停止しているため、需給逼迫懸念からとうもろこし・小麦ともに相場が高騰している。当面鎮静化はなく、少なくとも現状が落ち着くまで相場は下支えされる見込み。		
大豆粕相場動向	天候不順に伴う南米産大豆の減産懸念と船積遅延の影響により中国向け輸出が滞っており、中国国内の在庫水準が極めて低水準となっているため大豆粕の発生も減少し、輸出处のオファーが取れない状況となっている。それに伴い国産大豆粕の引合いが強くなり、輸入、国産共に相場は急騰している。		
糟糠類	【一般フスマ】 ふすまの発生量は引き続き減少傾向にある一方で、逼迫する他糟糠類との兼ね合いから引合いが強いため出荷制限は継続されている。		
	【グルテンフィード】 スターチメーカーが春先より稼働期に入るものの、在庫が低水準となっていることと、例年と比較して発生も低調となる見込みであることから引き続き需給は逼迫傾向となる見通し。中国産は現地価格が高止まりしていることや発生が減少していることからオファーが取りづらい状況となっている。		
海上運賃	ウクライナ情勢緊迫化を受けて、インドネシア出し欧州向けの石炭の荷動きが活発化するなど、輸送需要が急増しており、用船料の上昇を招いている。穀物輸送もロシア産・ウクライナ産コーン・小麦の輸入が停止、代替産地としての米国産、カナダ産、豪州産などが軒並み相場高騰となっており、航海の長距離化が予想されるため今後は堅調に推移する見込み。		

米国産トウモロコシ生産量と期末在庫の推移



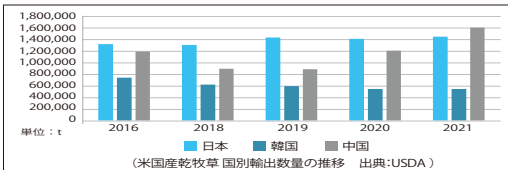
米国産大豆生産量と期末在庫の推移





輸入粗飼料の情勢

令和4年3月

北米コンテナ船情勢	3月9日にロサンゼルス港から発表された報告によると、ロサンゼルス港及びロングビーチ港沖合におけるコンテナ本船の滞船は46隻となっています。年始の1月9日の109隻をピークに滞船数は半減し改善の兆しを見せていますが、引き続き高い滞船数のため今後も注視が必要です。ロサンゼルス港から出港する日本向けの直行便は、スケジュール調整のため2月から3月にかけて毎週の運航から隔週となっており、輸送能力が大幅に減少していることから、船腹の逼迫が続いています。アルファルファ、チモシーが多く輸出されているPNW航路においても経由地であるカナダのバンクーバー港沖合での滞船は続いています。シアトル港・タコマ港出航後2-3週間バンクーバー入港に向け沖合で滞船を強いられている状況で、船社によっては本船スケジュール調整のため3月の1ヵ月間、日本向け定期便の欠便を決定しています。この影響を受け日本ではアルファルファ、チモシー、ストローの在庫が逼迫した状況が続いています。																								
ビートパルプ	2月下旬に開始されたロシアによるウクライナへの侵攻はビートパルプにおいても影響が出ることが懸念されています。ロシアは世界最大のビートの生産国であり、生産されたビートパルプの多くがヨーロッパに輸出されています。世界各国でロシアに対する経済制裁が行なわれるなか、今後ロシア産ビートパルプの流通が滞る場合、ヨーロッパ諸国から米国産ビートパルプへの引き合いが強くなる可能性があるため、需要の変化には注視が必要です。 【米国産】 産地では冬期における気温が低く、原料であるビートの保管に適した天候が続いています。このため保管期間におけるダメージによる原料のロスが少なくなっており、一部の工場では例年よりも1ヵ月程度長い、6月前後まで生産が続く見込みです。																								
アルファルファ	USDA（米国農務省）から21年の米国産乾牧草の国別輸出量が発表されました。21年の輸出先上位3ヵ国は中国、日本、韓国となり、それぞれの輸出量は中国向けが160万t、日本向けが144万t、韓国向けが54万tとなっています。中国向けの160万tのうち97%にあたる156万tをアルファルファが占め、その他4万tが20年から輸出が解禁されたチモシーが主となっています。また21年は中国への輸出量は初めて日本を上回る年となりました。中国は経済発展に伴い食文化の西洋化が進んでおり、乳製品の消費も拡大傾向にあるなか直近では好調な乳価を維持しており、中国国内の生産現場においても良質な牧草を求める傾向が強くなっています。  単位：t (米国産乾牧草 国別輸出数量の推移 出典：USDA) 【ワシントン州】 各輸出業者は引き続き遅延する本船のスケジュールを合わせるため製造と港へのコンテナ搬入の対応に追われている状況です。22年産カルフォルニア産が高値で推移していることから、ワシントン産に対する需要は高くなっていますが、21年産の余剰在庫は限られており、産地相場は堅調に推移しています。 【カリフォルニア州】 同州南部インペリアルバレーでは2月より22年産アルファルファの収穫が開始されています。1番刈は比較的冷涼な気候のなか、収穫作業が進み上級品中心の発生となっています。相場については前年同期比で大幅に上昇しています。引き続き米国内の乳価は好調で、穀物相場が上昇するなか米国内の酪農家は穀物の給与割合を減らしアルファルファの給与割合を増加させているため、上級品に対し強い需要が続いています。加えて、中国も好調な乳価が続いており、産地では上級品の確保のため米国内需と中国の間で旺盛に買付が進められており、産地相場は日々上昇を続けています。																								
チモシー	【米国産】 21年産は早魃の影響を受け生産量が少なかったことから、産地にある在庫は各グレード成約済みとなっているため、余剰在庫はない状況です。22年産の作付面積は21年産の相場が良好であったことから、昨年並みになることが予想されています。一方で冬季に発生したラニーニャ現象の影響でカスケード山脈の冠雪が例年よりも少ないことから、カスケード山脈からの雪解け水を灌漑用に引水しているチモシーの主産地のひとつであるエレンズバークにおける生産への影響には注視が必要です。 【カナダ産】 アルバータ州南部レスブリッジ地区、中部クレモナ地区ともに21年産は早魃の影響で生産量が減少したこともあり、産地在庫は全て成約済みで余剰在庫はない状況です。21年産の相場が堅調であったことから生産者のチモシーに対する作付け意欲は強く、作付面積は例年並みから微増することが予想されています。																								
スーダングラス	主産地であるカルフォルニア州南部インペリアルバレーでは3月中旬から22年産スーダンの播種作業が開始される予定です。現在、各輸出業者においては、21年産の余剰在庫がなく新穀の収穫を待っている状況です。早播きスーダンの競合作物となるデュラム小麦の作付面積は、産地灌漑局の発表によると2月15日時点で37,341エーカー（昨年同期15,483エーカー）と昨年比で大幅に増加しています。背景としてはデュラム小麦市場で世界的にシェアの高いカナダで昨年早魃があったことからデュラム小麦の生産量が減少し、相場が好調に推移していることが挙げられます。デュラム小麦の作付けが増えると、上級品の発生がしやすい早播きスーダンの作付面積に影響が出るため今後もデュラム小麦の作付面積には注視が必要です。																								
クレイングラス	クレインは全酪連の登録商標です。 主産地であるカルフォルニア州インペリアルバレーでは3月中旬ごろから、22年産1番刈の収穫に向け圃場への散水作業が開始されます。今後順調に生育が進めば4月上旬頃から1番刈の収穫が開始される見込みです。肥料や燃料代など生産コストが上昇しているため、22年産の相場への影響が懸念されています。																								
ストロー類	2月11日にUSDA（米国農務省）からオレゴン州における22年産ライグラス、フェスキューの予想作付面積が発表されました。近年は需要の高まりからヘーゼルナッツといった果樹への転作が増加し、ストローの作付面積減少が続いていましたが、22年産のライグラス、フェスキューの総作付面積はほぼ前年並みの321,000エーカー（21年産は320,000エーカー）となっています。ペレニアル種のライグラスは前年21年産よりも5,000エーカー増加となる62,000エーカーとなる見込みです。 <table><tr><td></td><td>2018年</td><td>19年</td><td>20年</td><td>21年</td><td>22年</td></tr><tr><td>アニユアルライグラス</td><td>118,000</td><td>110,000</td><td>122,000</td><td>114,000</td><td>112,000</td></tr><tr><td>ペレニアルライグラス</td><td>77,000</td><td>75,000</td><td>60,000</td><td>57,000</td><td>62,000</td></tr><tr><td>フェスキュー</td><td>125,000</td><td>131,000</td><td>149,000</td><td>149,000</td><td>147,000</td></tr></table> （オレゴン州におけるストローの作付面積推移 出典：USDA 単位：エーカー）		2018年	19年	20年	21年	22年	アニユアルライグラス	118,000	110,000	122,000	114,000	112,000	ペレニアルライグラス	77,000	75,000	60,000	57,000	62,000	フェスキュー	125,000	131,000	149,000	149,000	147,000
	2018年	19年	20年	21年	22年																				
アニユアルライグラス	118,000	110,000	122,000	114,000	112,000																				
ペレニアルライグラス	77,000	75,000	60,000	57,000	62,000																				
フェスキュー	125,000	131,000	149,000	149,000	147,000																				
豪州産オーツヘイ・豪州産ストロー	【豪州産】 日本をはじめとする、各国からのオーツヘイに対する引き合いは強く、輸出業者によっては製造スケジュールがすでに数ヵ月先まで埋まっている状況です。加えて豪州発の船腹は引き続き逼迫しており、満足に船腹が確保できないため各顧客向けに月ごとに出荷本数制限を行う動きも見られます。																								
豪州海運情勢について	年末年始と豪州産オーツヘイの入船で不安定な状況が続いていましたが、徐々に状況は改善されつつあります。これまで豪州から日本向けの積替港のひとつである、東南アジアにおいてフィーダー船が減便されたことにより、積替地でコンテナが1-2ヵ月滞留し、不安定な入船状況が続いていましたが、この状況を受け一部の船社で東南アジア経由の日本向けの船腹予約受付を一時的に停止したことで、現在では東南アジアでのコンテナ滞留は改善傾向にあります。一方でもうひとつの積替港である釜山港では東南アジア経由からシフトしてきた貨物が一時的に増加したため、混雑が最近になり顕在化しているため、引き続き豪州産オーツヘイのスケジュールには注視が必要です。各輸出業者は船社と4月-6月の海上運賃の交渉が開始されています。船社によっては逼迫する船腹と原油高を背景に1コンテナあたり\$1,000の値上げを示唆しており、4月以降も豪州産オーツヘイの価格には注視が必要です。																								



乳牛産地情報

令和4年4月1日現在

札幌支所 TEL 011-241-0765
釧路事務所 TEL 0154-52-1232
根室駐在員事務所 TEL 01537-6-1877
帯広事務所 TEL 0155-37-6051
道北事務所 TEL 01654-2-2368

価格状況 ▲……強含み ▼……やや強含み →……横這い ⇐……やや弱含み ↓……弱含み

事務所	畜種	相場(万円)	価格状況	管内状況
札幌管内	育成牛(10-12月令)	30~40	→	札幌管内の3月中旬までの生乳生産量前年比は、函館管内月計で104.8%、累計で100.1%、苫小牧管内月計で98.1%、累計で98.8%の実績となっております。4月の初妊牛動向といたしまして、6月~7月上旬分娩が中心となります。3月管内地域の実績は、5月分娩の人氣があり強含みで推移しましたが、庭先購買としましては、道内需要も落ち着き、夏分娩も絡むこともあり、やや弱含みの相場で推移すると見込まれます。資源状況につきましては、雌雄選別腹・F1腹ともに十分に確保できるものと見込まれます。優良牛や高能力牛の多い地域でもありますので、ご希望がございましたらお問合せください。
	初妊牛	55~65	⇐	
	経産牛	33~43	⇐	
釧路管内	育成牛(10-12月令)	32~42	→	根釧管内の3月中旬までの生乳生産量前年比は、釧路管内月計で102.0%、累計で102.2%、中標津管内月計で103.8%、累計で104.5%の実績となっております。4月の初妊牛動向といたしまして、6月分娩が中心となります。3月の管内乳牛市場は5月分娩を求める動きが強かったこともあり、強含みで推移しましたが、庭先購買としましては、横這いで維持すると予想されます。腹別のF1腹・雌雄選別腹の価格差は小さくなってきております。経産牛動向は4月に離農セールが開催されることから、出回り頭数が増えることが予想され、やや弱含みとなるものと見込まれます。
	初妊牛	60~68	→	
	経産牛	35~43	⇐	
帯広管内	育成牛(10-12月令)	35~45	→	帯広管内の3月中旬までの生乳生産量前年比は、帯広管内月計で104.6%、累計で104.5%の実績となっております。4月の初妊牛動向といたしまして、6月~7月上旬分娩が中心となります。3月管内地域の実績は、春分娩が多く上場しましたが、道内需要が落ち着いていたことから、やや弱含みで推移いたしました。庭先購買としましては、夏分娩も出てくるため、やや弱含みの相場で推移すると見込まれます。資源状況につきましては、腹別では、依然として雌雄選別腹に比べてF1腹の引き合いが強い状態ですが、雌雄選別腹・F1腹ともに十分に確保できるものと見込まれます。また、経産牛も同様に道内需要が落ち着いているため、4月の庭先購買価格はやや弱含みに推移するものと見込まれます。
	初妊牛	58~68	⇐	
	経産牛	33~43	⇐	
道北管内	育成牛(10-12月令)	28~38	→	道北管内の3月中旬までの生乳生産量前年比は、稚内管内月計で104.3%、累計で101.0%、北見管内で月計104.0%、累計で103.4%の実績となっております。4月の初妊牛動向といたしまして、6月中旬~7月中旬分娩が中心になります。道内需要は落ち着いており、夏分娩に入り始めるため、価格はやや弱含みで推移すると思われます。資源頭数は前年並みと思われます。腹別では、雌雄選別腹に比べてF1腹の引合いがやや強い状況となります。育成牛は来春に分娩可能な牛が中心となりますが、資源頭数が多いため横這いで推移すると見込まれます。経産牛は産次数の少ない牛は需要が高く維持されているため、横這いで動く見込まれます。
	初妊牛	56~66	⇐	
	経産牛	33~43	→	
道内総括	育成牛(10-12月令)	32~42	→	道内の3月中旬までの生乳生産量前年比は103.7%、累計で103.2%の実績となっております。4月の初妊牛動向といたしまして、春分娩において一部、年度内駆け込み需要はあったものの、道内外の導入意欲は少なく、例年より落ち着いた相場を見ていること、春分娩腹から夏分娩腹へと移行していくことから、新年度に替わる4月についても、やや弱含みで推移するものと見込まれます。F1腹は引き続き人氣がありますが、資源について雌雄選別腹を含め、道内各地域で十分確保出来ております。今後とも相場動向を注視しながら庭先選畜購買を中心にご希望にあった搾乳用素牛を供給していきますので、今後、導入計画がございましたらお早目に弊会担当者へご連絡いただきますよう、宜しくお願い致します。
	初妊牛	58~68	⇐	
	経産牛	33~43	⇐	

今月の表紙



今月の表紙は「第11回酪農いきいきフォトコンテスト」に応募いただいた作品「空と牛と大地と」(北海道 菅野晃寛氏撮影)です。

令和4年4月10日発行(毎月1回10日発行)

全酪連会報 4月号 No.679

●編集・発行人 工藤文彦

●発行 全国酪農業協同組合連合会

〒151-0053 東京都渋谷区代々木一丁目37番2号 酪農会館

TEL 03-5931-8003 <http://www.zenrakuren.or.jp/>

編集後記

- あちらこちらで花の便りも聞かれるところとなりました。まん延防止重点措置も全国的に解除となりましたので、感染防止対策を取りながら、季節の行事を楽しみたいと思います。新年度で何かと御多忙かと存じますが、体調を崩されませんようお気を付けください。
- 会報に関するご意見・ご要望等があれば、以下のアドレスにメールをいただければ幸いです。

shidoukikaku@zenrakuren.or.jp

今月の

らくのうこどもギャラリー

入賞作品紹介



大きな牛

那須塩原市青木小学校 2年（関甲信） 大野 美桜

今月の入賞作品は…

那須塩原市青木小学校 2年（関甲信）の大野美桜さんの作品です。

牛さん親子の愛おしさが伝わってくる作品です。絵全体がやわらかな線やパステルのような淡い色で包まれていて、心地よいです。お母さん牛がやさしく子供に寄り添う姿勢が見事に表されています。美桜さんのあたたかい視線が伝わってきます。



※この作品は本会と全国酪農青年女性会議共催の「第47回らくのうこどもギャラリー」で全国198点の応募作品から入賞12点に選ばれたものです。

主催 全国酪農青年女性会議

第50回 全国酪農青年女性 酪農発表大会 in 東京

令和4年
7/14(木)▶15(金)

特別記念講演

スイミングアドバイザー / スポーツコメンテーター

岩崎 恭子氏



1992年バルセロナオリンピック
200m平泳ぎ金メダリスト。
現在は水泳の指導や普及活動、コメン
テーターとして活躍中。

日程

7月14日(木)

13:00~13:50 開会式
13:55~16:15 酪農経営発表
16:15~16:25 らくのうこどもギャラリー表彰式
16:40~18:15 酪農意見・体験発表
19:20~21:30 懇親会

7月15日(金)

9:00~10:10 特別記念講演
10:25~11:35 審査講評・表彰式
11:40~11:45 新旧役員紹介
11:45~11:50 閉会式

大会参加費

1名 **5,000円** (大会のみ) 1名 **15,000円** (大会・懇親会まで)

※宿泊につきましては、各地域会議事務局にお問い合わせください。

大会会場・アクセス

◆ 会場・宿泊

「ホテルイースト21東京」
〒135-0016 東京都江東区東陽 6-3-3
TEL. 03-5683-5683 (代表)



◆ アクセス



- 最寄駅
東京メトロ東西線「東陽町駅」1番出口から徒歩7分
- 鉄道の場合
東京駅よりタクシーで約15分
- 車の場合
東京駅より約15分
羽田空港より約60分
成田空港より約60分
- 飛行機でお越しの場合
成田空港・羽田空港よりリムジンバス運行